

ヒメヌマハリイ

Eleocharis kamtschatica (C. A. Mey.) Komar.

カヤツリグサ科

石川県カテゴリー 絶滅危惧 I 類

国カテゴリー 該当なし

選定理由

自生地が極めて少ない。既知の産地は数ヶ所あるが、今回の調査では3ヶ所の確認報告があったのみである。(現況:R-)

形態

細長い地下匍枝を出し、株はマット状に広がる。稈は細く径1mmほどで、高さ20~50cm。長さ7~20mmの小穂が頂生する。

国内分布

北海道、本州、四国、九州。

県内分布

舳倉島、外浦区(輪島市門前地区、珠洲市木ノ浦)、中能登区(志賀町)。

生態など

多年草。花期は7~10月。

生育環境

岩石海岸の塩湿地。

危険要因

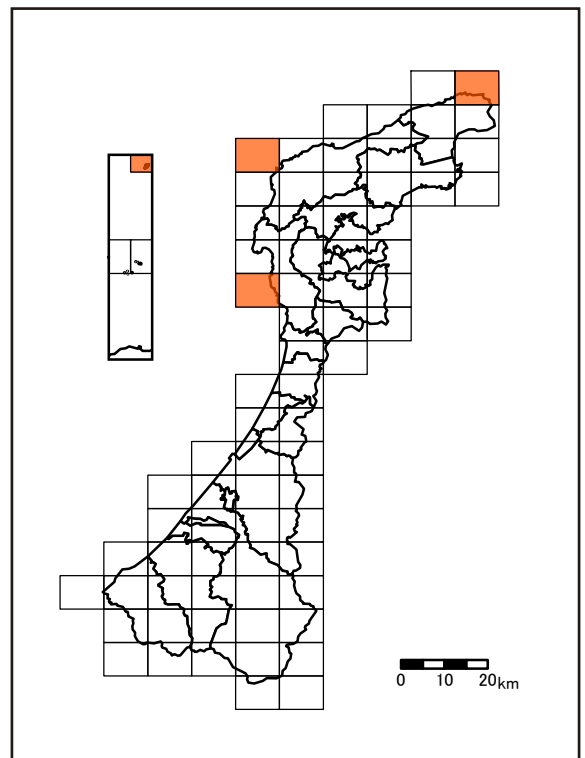
海岸開発、産地局限、高潮による侵食。自生地は海水を直接かぶる場所にあり、外浦区の自生地は近年波浪による侵食を受けて著しく縮小、消滅寸前の状態にある。地球温暖化による海面上昇が予想されており、今後個体群の消滅する危険性はさらに高まると考えられる。

特記事項

自生地の一部は能登半島国立公園内にある。



白井伸和・2004年6月27日・珠洲市



県内の分布